

## 委員会宣言

私たちは本日、東京・目黒さつき会館において第28回定期中央委員会を開催し、第21回定期大会以降の闘いを再確認した。そして、これまで闘ってきた弾圧粉碎！早期職場復帰と7名の完全無罪を勝ち取る闘い、国鉄改革完遂・JR労働運動の強化拡大、反戦・平和・憲法9条を守り広める闘い、反グローバリズム国際連帯の闘いをさらに前進させる方針を決定した。

昨年11月1日、JR浦和電車区事件から3年の大集会の圧倒的な成功やILO勧告の即時履行を求める署名、支援する会の賛同者の拡大、さらにはILOの第二次勧告など、反彈圧の具体的な闘いを大きく前進させている。だからこそ、12・7の歴史的な大弾圧に見られるように、止むことのない組織破壊攻撃が繰り返されるのである。私たちは、積極攻撃的にあらゆる手段を駆使して新たなデッチ上げ策動をはね返す万全な組織体制を構築する。いまや「微罪」にもならないことでさえデッチ上げ、労働者・市民への弾圧が強まっている。私たちはこうした弾圧に対する闘いとも連帯し、さらに拡がりを創り出していく。一方で、私たちの総団結を崩そうとする組織破壊者に対しては、内・外を問わず断固組織的に闘う。

2006JR春闘は、JR総連の全加盟組合による統一要求を掲げ、統一闘争としてベア獲得に向け闘うことを確認した。社員間の競争で職場を荒廃させ、安全性を損なう「人事・賃金制度」改悪を許さず、今、職場から立ち向かっている箱根以西の仲間とともに、広く大きく連帯した闘いを創り出す。そして、中小・地場・パート共闘の仲間や労連の仲間とともに総団結で闘う。私たちは統一要求・統一闘争という春闘の原点に立ち返り、賃金・労働条件の改善と働く者の連帯の拡大を目指して、2006JR春闘を闘い抜く。

昨年発生したJR西日本・福知山線事故、JR東日本・羽越線事故や1月のJR西日本・伯備線事故は、JRの安全・信頼が根底から揺らぐ大事故である。福知山線事故では、営利優先・運行第一の経営姿勢や「安全は経営の問題」として労使協議を本質的に否定してきた経営姿勢、懲罰的な社員管理や責任転嫁などが問われた。「責任追及から原因究明へ」という安全哲学を職場の隅々まで具現化し、二度と再び大惨事を引き起こすことがないように安全最優先の職場風土の再確立のために闘う。

昨年から記録的な大雪や異常気象、地震などで多くの被災者を生み出している。これに対し、パキスタン大地震へのカンパ活動や現地での復興支援を行ってきた。私たちは自然破壊を許さず、ヒューマニズムに基づく取り組みをこれからも続け、仲間の絆をさらに深めていく。

改憲の手続き法である「国民投票法案」が今国会に提出される動向にあり、改憲の動きが加速している。イラクへの自衛隊派遣はなし崩し的に延長され、9条改悪はすぐその先にまで迫り、平和を希求する人々への弾圧も強まっている。そうした中で、護憲・平和への共同行動と統一戦線の拡大は重要な課題である。私たちは「憲法9条 - 世界へ未来へ 連絡会（9条連）」や「戦争を許さない女たちのJR連絡会」と連携し、平和を守る取り組みを推し進めていく。

昨年、ICLS（国際労働者交流センター）を結成した。私たちが目指す国境を越えた団結と連帯の闘いは、大きく拡がりを創り出している。さらに世界へと労働者の連帯の輪を拡げていく。

私たちは、平和と安全を守り、子どもたちが安心して生きることのできる社会を築いていかなければならない。そのために、労働組合がこの時代の要請に応えなければならない。

JR総連は、多くの民衆との「絆」と「連帯」を求めて職場・地域から闘う。そのことによって私たちの未来が切り拓かれることを確信する。

以上、宣言する。

2006年2月3日

全日本鉄道労働組合総連合会  
第28回定期中央委員会